

伊豆諸島におけるキハダ等基礎的生態研究

【研究概要】

八丈島における曳縄漁の主な対象魚種はカツオであったが、漁獲量の減少により出漁隻数も減少している。一方で、キハダの漁獲量、一日一隻当たり漁獲量（CPUE）は増加傾向となっており、漁業者のキハダに対する期待が高まっている。水揚げされたキハダは、学校給食に利用されるなど島内の需要も高まっている。

そこで本研究により、伊豆諸島海域で不明なキハダの生態解明をすすめ、漁場予測を含めた曳縄漁の操業支援につなげていく。

- ① 曳縄試験操業等で漁獲した魚体 53 尾および、漁業者の漁獲物 39 尾について測定を行った。
- ② 過去の尾数ベースの水揚げ集計について、出荷伝票に基づき、重量を推定する作業を行った。
- ③ 通常標識による標識放流について、記録が不明瞭なものを除き 105 尾実施した。また、そのうち 24 尾について、アーカイバルタグによる標識を実施した。令和 7 年 2 月現在、再捕は無かった。
- ④ 漁獲量と黒潮流路の関係について、分析を行った。